

ハチジョウウスアヤカミキリの 幼生期の形態について†

郷 遠†

(東京都新宿区南山伏町5)

この属のカミキリは、後ばねが退化*^{1),2)}しているカミキリのグループとしてコブヤハズカミキリ *Mesechthistatus binodosus* (WATERHOUSE) 等と同様に、各地区により、特定の分化をしてきたカミキリとして、その分布は動物地理学的に興味をもたれている種である。ハチジョウウスアヤカミキリ *Bumetopia heiana* HAYASHI は伊豆諸島に分布し、最近では房総半島^{3),4)}、伊豆半島^{1),5)}でも採集されているが、これら本州での採集例は、海流の関係で host が漂流したものでないかということ等を考慮に入れると、もう少し長い目で見ないと土着あるいは原産しているとは言えないと思われるので、数多くの地点での採集例の報告があることが望ましい。本文の目的もそこにあるので、新しく蛹の形態をのべると同時に、野外における近似種との区別も併記した。

B. heiana については竹類^{6),5)}、メダケ^{7),5)}、オノバヤンチャブシ^{7),5)}、等の採集例が報告され、また材中の幼虫、あるいは成虫の採集例として、竹類⁶⁾、ホウライ竹²⁾、メダケの生竹⁵⁾、メダケ^{7),5)}、等がある。

本文に用いた検体はいずれも下村徹氏によるもので、また、host の同定には島地謙博士をわずらわしたので、併せて御礼申し上げる。

幼虫の形態

本種の幼虫の形態については、すでに中村慎吾・小島圭三(1971)⁸⁾により報告されているので、ここでは幼虫の全体図 (Fig. 2) を示すだけにとどめ、その他は省略し、追加すべき2点のみ記す。

(1) 原著の記載に使用された検体は、下しんひげの第2節が折損しているために不明とされている。筆者の観察した検体では、下しんひげ第2節は第1節と同じく淡かった色で、太さは第1節：第2節=2：1、長さはほぼ等しいか、第2節の方がわずかに短かった (Fig. 3)。

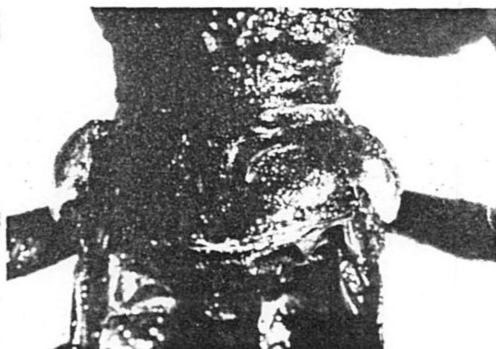
(2) 本種の幼虫は腹面より見て、肛門の後方第9腹節上に、微細な尾刺 Urogomphi が1本あるとされているが、筆者の観察した3例においては、2本幅狭く並んでいるものが2例、1本のものが1例であった。1本のもの

† Tooshi GOH: Morphological notes on the immature stages of *Bumetopia heiana* HAYASHI

* この属の後ばねは、コブヤハズカミキリの塊状の後ばねと比べて異なり (Fig. 1)、小さいながら明らかに羽化時の伸展と、痕跡的な翅脈も見られる。後ばねの退化現象は、後ばね自体の縮小という他に、羽化脱皮の際のはねの伸展機能の喪失という因子も考えられる。



Bumetopia heiana HAYASHI



Mesechthistatus binodosus (WATERHOUSE)

Fig. 1 退化した後翅 (Atrophic hind wings of the adult)



Fig. 3 ハチジョウウスアヤカミキリ幼虫の下しん
(Labium of larva of *Bumetopia heiana*)

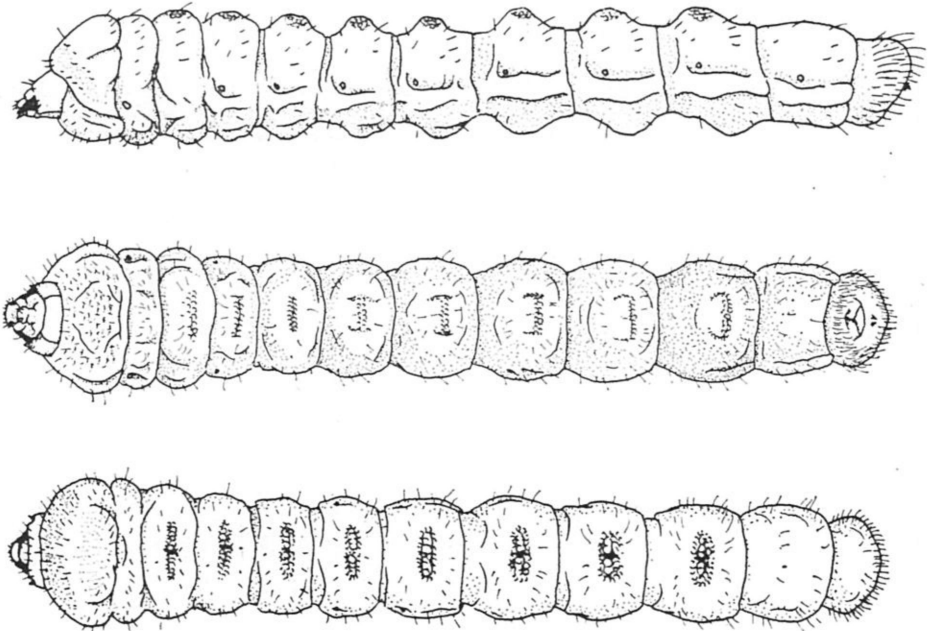


Fig. 2 ハチジョウウスアヤカミキリの幼虫
(Larva of *Bumetopia heiana*)

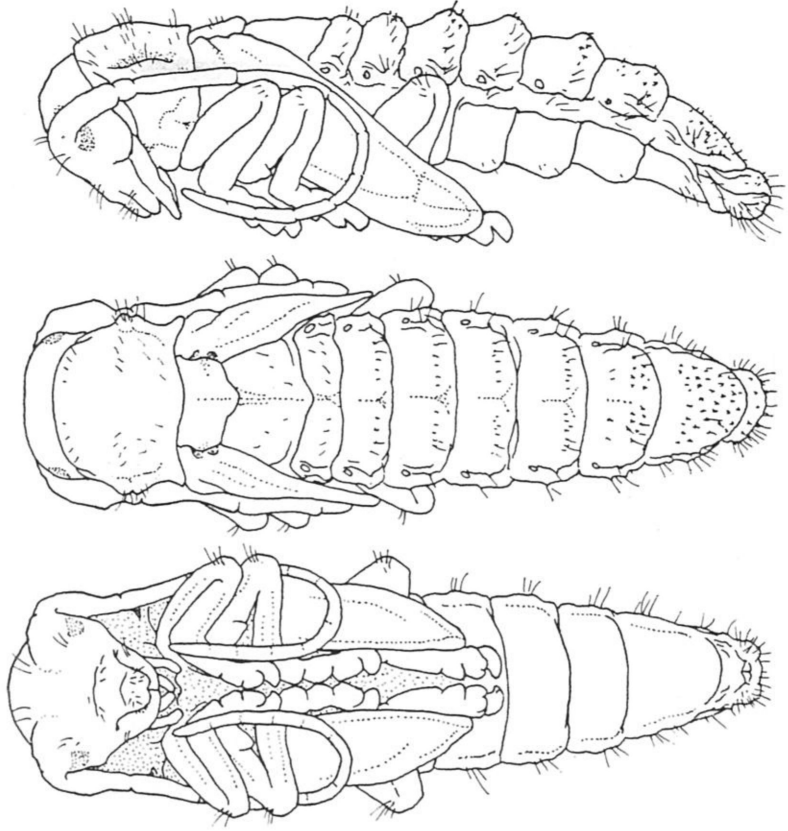


Fig. 4 ハチジョウウスアヤカミキリの蛹
(Pupa of *Bumetopia heiana*)

のは尾刺の部位が正中部より外れていることより、2本あるものが原形で、1本のは片方が退化したものであるかと思われ、多数例の中には、尾刺をまったく欠く個体も出てくる可能性がある。

以上に使用した検体は、下村徹氏により1972年2月16日、伊豆三宅島のアズマネザサの類 *Pleioblastus* sp. の自生立枯れより採集した3個体を使用した。なお、同氏によると、三宅島の本種は、成虫はススキの根元に多く発見され、幼虫もその中に認められるとのことである。

蛹の形態

全体的にずんぐりした円筒形で淡黄色。頭頂は円く毛がなく、触角第1節は太い。触角基部後方および間にかけて左右おのおの2~4本の毛がある。顔面平坦で幅広く逆三角形。触角基部間の幅は広い。眼の内側に2~3本の毛があり、大腿上に2本、上唇上左右におのおの5~7本の毛がある。上唇、頭楯部の境は溝状に凹み、頭楯上部には左右2~3本づつ毛がある。上唇の先端は二山状となり、小あごひげには毛を認めない。前胸背は平坦で前縁および中程におのおの毛が疎に横列し、中程のものは比較的多く、ともに正中部は無毛。また中程より後縁近くにかけてV字状に近く不明瞭に毛が疎生する。前胸背側縁は中程で二山状に突出し胸側突起となり、その基部はふちどられるごとく凹み、おのおの10本前後の毛が密生する。中胸小たて板、後胸小たて板は毛がほとんどなく痕跡的。小たて板溝はやや明か。

触角は合では体側に沿い下行し、後肢腿節の前方で彎曲内転し、さやばねの先端よりほぼ1/2の部を横切って、中・前肢跗節の外側に沿い上行し、小あごひげのつけ根外側で止る。早では、やや上部で彎曲内転し、さやばねの先端よりほぼ1/2の部を横切り、中・前肢跗節の外側に沿い上行し、前肢脛節端、小あごひげの先端両外側附近で止る。

触角第3節は体側に沿い彎曲する。

各跗節は太く、各腿節先端近く外側に微毛が5~6本横列する。

さやばね端は第4腹節中程に、後肢端は第4腹節後縁にはほぼ位置する。

各腹節は肋膜明か、背面の第1腹節上には微細毛が左右5~6本づつ分布し、刺状突起はほとんど見られない。第2~第5腹節には後部に刺状突起を横列し、第5腹節にはさらにその上方にも2~4本の微細な刺状突起のある個体もある。これらの刺状突起は、外側に近いものに長毛を伴う傾向がある。第6腹節中央部後縁は後方にやや突出し、刺状突起は不規則となり、第7腹節では上縁部を除き全体的に分布し、尾端部は周囲に刺状突

起と長毛を分布する。

各腹節腹面はほとんど毛や刺状突起を認めず、尾端節は肛門の側方から上方にかけて隆起し、多くの微毛がある。

以上に使用した検体は、前述の幼虫3個体のうち、2個体を飼育し、1972年8月13日蛹化、同年8月29日に羽化した♀と、1972年9月7日蛹化、9月12日固定した♂を基にした。

♂=体長15.8mm, 前胸幅3.6mm, 最大体幅3.7mm

♀=体長16.5mm, 前胸幅3.6mm, 最大体幅4.3mm

ハチジョウウスアヤカミキリと

ハイロヤハズカミキリの幼虫、蛹の区別点

竹類を host とするカミキリは、この他にタケトラカミキリ、ベニカミキリ、ハイロヤハズカミキリ、サビアヤカミキリ等が判っているが、その食性や、host の太さ等より考えると、野外で一番鑑別を必要とするのはハイロヤハズカミキリである。キボシチビカミキリ *Sybra flavomaculata* BREUNING の幼虫等も、本種の幼虫と一見して似ているが、host が全然ちがう(モミ)のと、やや小さく、尾刺がないことなどで区別できる。

ハチジョウウスアヤカミキリ、ハイロヤハズカミキリは、ともに細い(径7~8mm前後)竹類の中空部にいて、その内壁を食し、中空部の前後を食糞で充填して、生態もよく似ている。以下のべるこの二者の区別点は、野外で肉眼〜ルーペで判る程度のものである。

表のように、はっきり区別できるし、大きさもハイロヤハズカミキリの方が大きいから、逆をいえば、野外でウスアヤカミキリの類の幼虫を採りたい時は、やや細目の竹をねらった方が効率的のように考えられるが、皮肉なことに、竹の種類によっては材部が厚く、したがって中空部の内径は外観だけでは予測できない。

表 ハチジョウウスアヤカミキリとハイロヤハズカミキリの幼虫、蛹の区別点

	区別点	ハチジョウウスアヤカミキリ	ハイロヤハズカミキリ
幼虫	前胸背	前胸背前縁の毛は長く疎	前縁の毛は短く密生する
	下口節	白色	褐色
蛹	背面尾端節	細毛多く分布(尾刺は小さい)	太く短かい褐色の針状刺毛が密生
	上唇	先端二山状で毛は少なく不規則	先端は丸く、ほぼ二列状に毛が横列
蛹	さやばね端	ほぼ丸い	するどく針状に突出する
	尾端	肛門上方および側方は毛で囲まれる	毛は全然なくトゲ状突起で囲まれる

○印は特に判りやすい点

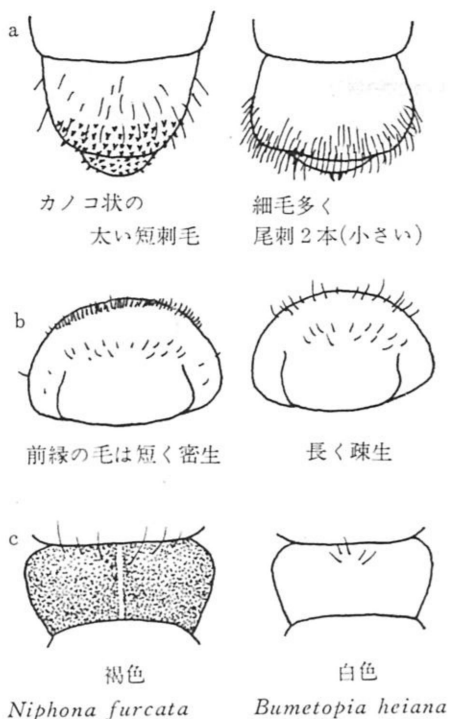


Fig. 5 2種の幼虫の区別点 (Difference of larva)

a. 末端節背面の毛 (dorsal view) b. 前胸背の毛 (hair of pronotum) c. 下口節の色 (coloration of hypostoma)

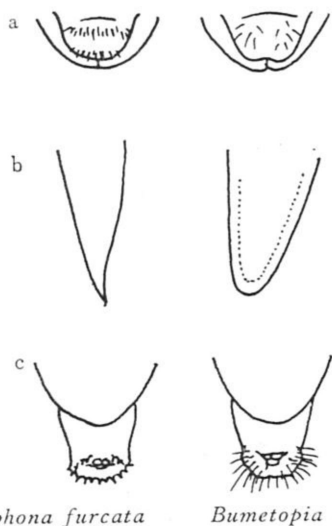


Fig. 6 2種の蛹の区別点 (Difference of pupa)

a. 上しんの毛 (hair of labrum) b. さやばねの先端 (elytral apex) c. 尾端部の毛 (hair of abdominal apex)

Summary

In this paper, it is described as to the larva and pupa of *Bumetopia heiana* HAYASHI, and also host plant (*Pleioblastus* sp.).

At immature stages, *B. heiana* resembles *Niphona furcata* BATES in form and food habits.

But *B. heiana* can be distinguished from *N. furcata* by "coloration of hypostoma, hair and urogomphi of abdominal apex, hair of pronotum," at larva, and "hair and form of labrum, form of elytral apex, hair of abdominal apex," at pupa.

引用文献

- 1) 林 匡夫 (1966): 日本のかみきりむし (8), 昆虫学評論 18 (2)
- 2) 小島圭三・林 匡夫 (1969): 原色日本昆虫生態図鑑 (1) カミキリ編
- 3) 石田正明 (1971): ハチジョウウスアヤカミキリが千葉県で採れていた, 月刊むし No. 18
- 4) 小田義広・久保田篤男 (1974): 伊豆半島でハチジョウウスアヤカミキリを採集, ELYTRA 2 (1)
- 5) 中村慎吾・小島圭三 (1971): ハチジョウウスアヤカミキリ幼虫の形態, 比和科学博物館研究報告 No. 15
- 6) 田中康彦 (1967): 八丈島のカミキリ, INSECT MAGAZINE No. 70
- 7) 小宮次郎・酒井 香・高桑正敏・宮原道則 (1972): 伊豆諸島のカミキリ, 月刊むし No. 18
- 8) 京浜昆虫同好会編 (1973): 新しい昆虫採集案内Ⅲ, 内田老鶴圃新社

(本文の学名は(2)によった。)